



農作業メモ

秋まきアブラナ科野菜の栽培のポイント

8月は、秋まき野菜の作付準備をする時期です。

秋になり、気温が低下するほど、野菜の生育も遅くなるため、作業の遅れが生育に大きく影響します。

適期には種・定植作業ができるように、しっかりと計画を立てて品質の良い野菜を生産しましょう。

1 ほ場の準備

(1) 連作障害対策

代表的な秋まき野菜の、だいこん、ブロッコリー、キャベツ、はくさい、こまつな等はすべて、アブラナ科野菜です。連作障害を避けるため、同じ場所に続けて作らないようにします。

特に、根こぶ病や菌核病などの土壌病害が発生したほ場では、感染源となる病原菌が土の中に潜んでいるため、発病の危険性が高くなります。計画的

に輪作して、土壤病害の発生を予防しましょう。

(2) 湿害対策

アブラナ科野菜は湿害を受けやすいので、水はけの悪いほ場では、明きよの設置や、高さ10cm程度にうねを立てるなど、排水対策を実施しましょう。

2 土づくり

地力を維持するため、年に一度、完熟たい肥を10㎡当たり約2ト、作付けの1か月前程度前に施用し、有機物の補給を行います。

乾燥鶏ふんは、窒素含有率が高い(窒素成分3%程度)ので、有機物としてはなく肥料として考えましょう。

3 は種・育苗・定植

ハウスで育苗する際は、換気をして温度が上がり過ぎないように注意します。

日差しが強い時は白寒冷紗で遮光して、苗に強い日射が当たらないように管理しましょう。

4 害虫対策

(1) 害虫対策

アブラナ科野菜を食害する害虫には、育苗中や定植後間もない時期に、芯を食害するハイマダラノメイガ(シシクイムシ)(写真1)、株の根元を噛み切るネキリムシ類(写真2)等があります。

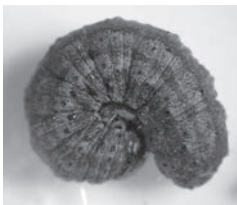


写真2 カブラヤガ(ネキリムシ)の幼虫



写真1 ハイマダラノメイガ幼虫

写真 埼玉の農作物病害虫写真集

これらの害虫は、ほ場や年によって多発する場合があります。多発すると、

収量を著しく低下させますので、発生がないかこまめに観察して防除対策をとりましょう。

8月からはハイマダラノメイガ、9月からはハスモンヨトウ等の発生が多くなります。育苗する場合は、は種後から防虫ネットをかけて害虫の侵入を防ぎましょう。また、は種時や定植時には粒剤等を処理し、被害を防止しましょう。

(2) 病害対策

早期からの薬剤の予防散布により、病害の発生低減に努めましょう。台風通過後には、風雨により株が傷ついたり、泥はねで病原菌が飛散するため、軟腐病・黒腐病等の病害発生の危険性が高くなります。天候が回復次第、早めに薬剤散布を行います。

農薬を使用する際は、必ず使用農薬のラベルを確認し、使用基準を守るとともに、周辺作物への飛散防止に努めましょう。

(大里農林振興センター 農業支援部)